



政務活動費収支報告書

令和 3年 4月 26日

(あて先) 飯能市議会議長

議員氏名 鳥居誠明

飯能市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定に基づき、下記のとおり
令和2年度の政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入 政務活動費 180,000円

2 支出 180,360円

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費		
研修費	27,844	セミナー「気象災害」
広報費	64,861	山鳩だより
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費	49,942	書籍等
人件費		
事務所費		
その他の経費	37,713	コピーディス、インクカートリッジ 等
合 計	180,360	

3 残額 0円

- (注) 1 備考欄には、支出の内訳を記載すること。
 2 領収書その他支出を証する書類の写しを添付すること。
 3 政務活動費収支報告書に係る政務活動事業実績報告書を添付すること。

様式第5号（第5条関係）

政務活動事業実績報告書

議員氏名 鳥居誠明

飯能市議会政務活動費の交付に関する規則第5条第2項の規定により、令和2年度政務活動費に係る事業実績報告書を次のとおり提出します。

月 日	事 業 名	事業概要及び成果等
2020年 11月11日	気象災害・予測と流域治水、防災力強化の方策	別 紙

(注) 使途基準の項目別に記載すること。

気象災害－予測と流域治水、防災力強化の方策

主催：地域科学研究会

2020年11月11日（水） 10：20～17：00

会場：剛堂会館（千代田区）

1. 気象災害の特性と防災情報－線状降水帯の予測と避難 (10:20～11:40)

講師：防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門長 三隈良平氏

- ①豪雨のメカニズム
- ②線状降水帯の予測
- ③人はなぜ避難しないのか
- ④気象台街予測の最近の研究

2. 災害の複合化・連続化・広域化と自治体連携-ポストコロナ時代の地域防災 (12:40～14:00)

講師：跡見学園女子大教授 健屋 一氏

- ①複合災害、連続災害、広域災害の時代
- ②地域防災の実状と課題
- ③地区防災計画で足元から地域防災力の強化

3. 国土強靭化に向けた水害に対する新しい思想－流域治水 (14:10～15:30)

講師：中央大学理工学部都市環境学科教授 山田 正氏

- ①近年の水害状況の概況
- ②水防施設がもつ治水効果
- ③水災害（外水氾濫、内水氾濫）に関する最近の研究紹介
- ④気候変動を踏まえた大規模豪雨予測の必要性
- ⑤河川、水防、地域・都市が一体となった流域治水への転換

4. 避難所運営の進化と新型コロナウィルスに備えた避難場所 (15:40～17:00)

講師：新潟大学医歯学総合研究科学科特任教授 横沢和彦氏

- ①令和元年（2019年）台風19号の避難所からの教訓
- ②欧米の避難所運営－イタリアの避難所運営
- ③避難所の運営と要としてのTKB
- ④新型コロナウィルスから守る避難所運営
 - イ、分散避難
 - ロ、血栓予防、床からの感染を防ぐ簡易ベッド
 - ハ、感染対策ゾーニングは不可能から
「新型コロナウィルスを入れない」、「発症させない」、「速やかに移す・留めない」

1. 気象災害の特性と防災情報－線状降水帯の予測と避難

- ・線状降水帯の予測は現代の技術をもってしても困難であり、いつどこで発生してもおかしくない。

線状降水帯とは豪雨が発生し、一定時間過ぎると隣接している場所で発生、その繰り返しが起こり、帶状に豪雨となる。最初に発生した場所は豪雨が長時間にわたるので被害も甚大となる。

豪雨は、夜間に発生する事が多く、側溝や道路脇の水路が見えなく非常に危険である。

避難する際は、早い段階、明るい内に避難する事が重要である。

2. 災害の複合化・連続化・広域化と自治体連携

- ・災害で大きな被害を受けた自治体の近くでも、近くで被害をそれ程受けていない他の自治体もある。近隣との情報交換、相互支援体制が重要

3. 国土強靭化に向けた水害に対する新しい思想－流域治水

- ・地下の大巨大貯水槽は、都市部の外水氾濫、内水氾濫とともに効果が大きいが、広域での連携連帶が必要。国レベルで取組む課題である。

4. 避難所運営の進化と新型コロナウィルスに備えた避難場所

- ・イタリアの避難所は普段生活しているのと殆ど変わらないような、建物、設備の写真が示され、日本の避難所生活は、大勢の人が床に寝たりしているので、戦時下の野戦病院程度でしかないと思わせるほどのものであり、避難所生活をもっと快適にし、精神的にも、身体的にも健康面に配慮する必要があるとのこと。
- ・体育館の出入り口は、外から帰つて来た人の靴の泥などで汚れ、衛生面で衛生面は良くない。土足を脱いで、自分の避難スペースに戻つてその埃などで、感染症が発生しやすくなる。対策としては、段ボールベッドなどを使用すると、床から30cm高くなると、埃、細菌、ウイルスが十分の一程度まで下がるとのこと。

考察 : ・豪雨の予報は出されるが、線状降水帯の予報は出来ないので非常に危険である事。

豪雨は夜間に多く発生しているので、早めの避難が大切である事。

- ・災害時の避難所生活の環境は、高齢者だけで無く、病弱の人もいるので段ボールベッドなどの様に床からの高さがあると感染症にかかりにくくなること。被害の少ない自治体が意外に近くにあるので、連携を強化しておく必要があること等が良く判った。

今後、避難所での生活について、衛生面で感染症を防ぐ意味からも簡易ベッドの配備が必要であると考えた。

今回の研修会では感染症への注意事項など学べたので飯能市でもこれらの事を配慮した防災訓練、備品の配備が必要であると感じた。